

全員協議会会議録

- 1 日 時 令和5年10月18日(水)
15時33分開会 16時28分開会
- 2 場 所 議場
- 3 出席議員 山本奈央・田村幸紀・只野敏彦・川上 均・中河つる子・
鈴木孝寿・橋本晃明・桜井崇裕・佐藤幸一・西山輝和・
中島里司・深沼達生・
議長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、次長兼総務係長：川口二郎
- 5 議 件
(1) 議会運営委員会からの報告事項について
・議会報告会と町民との意見交換会事前研修について

(2) その他
- 6 会 議 録 別紙のとおり

【開会 15:33】

- (1) 議会運営委員会からの報告事項について
・議会報告会と町民との意見交換会事前研修について

山下議長：最初に、議会運営委員会から報告事項がある。議会報告会と町民との意見交換会について議運委員長お願いする。

橋本議員：議会報告会と町民との意見交換会について報告する。資料1～4まで手元にあると思うが、資料1の部分、議会報告については5分～10分で概略を説明して質疑は行わない。分厚いが目を通していただく資料として、意見交換会により大きく時間をさきたいと考えている。意見交換会においては3つのテーマによりグループディスカッションでこれを意見交換して参りたいと思う。先ほどの資料1の、一枚めくっていただいて、ページ数入っていないけれども、次第と書かれた下の部分にグループディスカッションの班分け、とりあえずだけれど、まだ参加人数何人かわからないので仮だが、このように行いたいということで設定している。

この意見交換会についてはテーマの1番目が議員定数と報酬、女性議員の登用について。2番目が開かれた議会、委員会も含めたネット中継とかSNSの活用などについてをテーマとして、3つ目のテーマがフリートークと。これを時間を切って一つのテーマ30分程度で各グループ移って討議していただきたいと考えている。

進め方については、先日の芽室で研修を受けたやり方が非常に具体的で参考になったというところがあるので、その方式でやっていきたいと思う。

これについては、資料に番号振っていないけれど、清水町議会の行政視察ということで参考資料あるのでお目通しをいただきたいと思う。当日は、参加される方、入った段階でA～Fのどこのグループに入るのか記載した資料をお渡ししてテーブルについていただき、司会者が説明進行を行ってそして進めてまいりたい、各テーブルに議員が2人ずつ入る構成になっていて6グループを予定している。

これは人数によってということもあるけれども、今これで考えている。

昨年、一昨年の参加された町民の数というものからこのようにしている。

そして記録者という形をとっているけれども、このグループ討議の中でポストイット、紙に書いたものを模造紙に貼っていく形をとるので、特に発表するための記録ではなくて、議論を進めていくための記録係という形になる。

グループディスカッション、かなり小刻みに時間を切って進めてまいるので、その部分については事務局に時計を見ていただくというようなことになろうかと思う。あと事務局で補足するところがあれば説明していただいて、皆さんから質疑していただければと思う。

事務局長（大尾 智）：今、橋本委員長から1～4までの資料と言っていたが、1～5までの資料がある。1は議会報告の資料なので例年とほぼ同じものである。先ほど委員長がお話あったように報告をしていただくという形になる。その後の意見交換会についてはグループに分かれてのディスカッションとなる。

そこで、最初のテーマについては以前に資料2～3にお配りしている抜粋等試算とか、こういう議論がされたということをもっと前提として司会の方に若干ご説明をいただいた上で、4、5については十勝管内の議員一人当たりの数だとか女性議員の比率、月額報酬の一覧になっているのでこれを議論の前提ということ

で、参加した方にはそれを承知で理解していただいで議論していただければと思う。

3のフリートークの部分については特にテーマがないのでそれぞれ参加した方が議会に思っていることをお話ししていただけたらと思っている。

それから先ほど委員長もお話あったように、最後のグループ討議なのだけれども、特に発表については時間の関係もあるのだけれども行わないで、今後の議会活性化の議論における参考として活用させていただくということで閉めていただければと思う。

視察の中身、目を通していただきたいのだが、グループ討議の配置の部分、それぞれ司会者の方は皆さん芽室町の研修にも参加されているので、司会者がやり方等ご説明をしていただきながら進めていただければと思っている。基本的にこのあと議会運営委員会もあるので、その中であらためて司会者に当たっている議運の方、山下議長には再度確認いただいた中で進めていただければと思う。

それから資料の中でアンケートを今までもとっている。中身についてはあまり今までと変わらないが、4番については今年からこういう方式でやっているがどうでしたかと、ご意見いただきたいと思う。

ご意見いただいた中で、今まで通りの方がいいということであれば検討していかなければならないのだろうけど、今回、初回なのでなかなか思ったように進むかわからないけれど、今回こういうやり方をしていかがかという部分をアンケートのほうで確認していきたいと思う。

山下議長：只今、議運委員長、事務局から来週の25日、26日に行う議会報告会と町民との意見交換会の流れについて説明をいただいた。何か質問等あるか。

桜井議員：今、委員長の報告等受けて、2点ほど質問をしたい。

今回パネルディスカッションでやると、そういう中で最後のフリートーク。今までは町や議会に対する要望が多かったのだが、前段の部分については参考にさせていただくということでいいと思うのだが、フリートークの中でいろいろな要望事項についてはどう答えていけばいいのかということ、答え方を聞きたい。

あと、資料5だが、町村の報酬の一覧が出ているのだが、できれば報酬の多い順に書き直していただきたい。これは清水町が下の方にいるのだというのを町民に理解していただきたいという部分もあるので、そこらへんも少し配慮していただきたいと思う。

山下議長：2番目の資料については事務局のほうで整理をさせていただくことでよろしいか。5番目の資料については順番を変えていきたいと思う。一番目について議運委員長お願いする。

橋本議員：町民からの要望というか、町政に関するものが出てくるというのは当然予想される事ではあるけれども、そこに議会としてまとめて答えるということは全く考えていない。それぞれの議員活動の中で、あるいは議会の議論のテーマの中で参考にするべきことはそのように扱うということになるだろうし、特別町長にぜひ伝えてほしいということであればそうすることはやぶさかではないと思うが、そこで答えるであるとか、町に対する要望の窓口という位置づけにはほしくないと考えている。

山下議長：他、質問はあるか。

鈴木議員：前段、模擬議会遅れたことをお詫び申し上げる。

質問させていただくけれども、議員になって7回目の議会報告会になると思う。今回の議会報告会は何を目的にして行うのかをお聞きしたい。

山下議長：はい。議運委員長。

橋本議員：まずは開かれた議会というものをする中での取り組み、議会で報告の部分は紙をお配りするだけになるかもわからないが、町民が町政に参加していく上でひとつ重要な会になると考えている。

山下議長：はい。鈴木議員。

鈴木議員：その中には議会の活性化というのは特に考えていないと、本来は議会活性化があって、その中に開かれた議会であったり、町民から意見を聞く場っていうのが、大元は議会をどう活性化して町民に訴えていくか、もしくは町民に理解してもらうかというのが本当だと思うのだが、そういう部分は考えていないで、開かれた議会もしくは町民から意見を直接吸収していくということで理解してよろしいか。

山下議長：議運委員長。

橋本議員：説明が不十分であったけれども、議運の話の中で2つ目のテーマ、開かれた議会という部分は、議会の活性化につながるものも含めてと押さえている。

山下議長：鈴木議員。

鈴木議員：まわりくどい言い方をして申し訳ないのだけれども、わたくし7回目と言ったけれども、例えばテーマが議員定数と報酬、女性議員の登用について、2番目が開かれた議会、SNSの活用等となっているけれど、これは議運で決めた、現実的には、これまで6回、7回やっている中で各委員会に例えば常任委員会に落とした上で協議して、何が今必要なのかということを経験全体に考えさせるというのは確実に昔からやっていたと。たぶん私がやり始めたのが1回目、2回目、3回目ぐらいから報告会やっている。

議員全体で今何が必要なのかを考えながらお題を出していく、そしてみんなで共有しながらやっていくというのが基本だったのだが、例えば一番目の議員定数と報酬について、もちろん大事な問題なのはわかっているのだけれど、議会の活性化の中において、これを町民に聞く前にまずは我々がやる事いっぱいあるのではないのかというところで、その協議は議員間全く語られていないということが今の現実。その中でいきなり町民に渡して、はい考えてくださいどうですかというのは、これこそ我々が思考停止してそのまま町民に丸投げしているとしか捉えられない。どうして協議できなかったか、進め方の問題でこれまでに一回も各常任委員会に意見を求めて、お互いにキャッチボールしていった経緯があるのだが、一回も今回の話はなかった。それでいてこの位置付けというのを今回からどう理解していけばいいのか。来年以降もこのやり方でいうなら、それはそれで議長の新しいやり方ということで理解するのだけれど。議運以外は何も知らないというのは、果たして何のためにやっているのか。勝手にやっているのであれば勝手にやるとしか僕は考えられないのだけれど。それについて納得できるように、反対するわけでもないし、やるならやらなくてはいけないし、チラシも出てしまったから、けれど、議運以外は誰も知らない、何も知らない、この前芽室でやっていたけれど、こんなやり方して何が報告会で意見交換会かと、まあ、議運のメンバー以外は記録者ですから全然構わないけれど、これが議運のための行事だったら議運だけでやればいいのか、極論。そうになってしまうのだけれど、他の議員に対して協議も何も無いままで、はい報告会やると、どこまで協力したらいいのか、以上である。

山下議長：議運委員長。

橋本議員：実は同じことをずっと考えている。議運の委員長になり議運で議論してきたけれど、どこかの時点で、議運だけでずっとやっていくものではないなと思っている。ただ、日程的なこととかいろいろなことがあって、模擬議会であったり意見交換会があって、それを終えてどのような段取りで議会が活性化していくかということについては、共有していかないと進まない、逆に言うと僕らがいろいろなところを勉強するというのも、議運だけでやっても進まない。何をもって今の議会に足りないのか、町側に予算を要求していくには何をやらなければいけないのかは、やはり議員の中で賛成反対あったとしてもひとつの結論を出さなければいけないところだと思っているので、進め方を報告する中で、全員協議会の中でいろいろな意見を出してもらって、揉んでもらって大いに結構だと思っているが、ただ進め方としてどうしたらいいのかというところは、今日も議会運営委員会あるけれども次のステップでいくというような捉え方でいくとすると、どういう段取りで進めていくかという、これは検討しなくてはいけないと思っている。横を向いて言うのは何だけれども、冗談で誰かに相談したら全員面談したらどうだとかいろいろな意見あるようなのだけれど、ただやはり議論を共有化していくということは進めなければいけない。いつまでも議運単独で、いままでの経緯だとかも調べてきたけれども、やはりこれからというものには議員全員で意見を共有する場というのが必要だなとそう思っている。もし、今日あるならばこれからはこうしてほしいということも含めて出していただければ大いに結構かと思う。

山下議長：はい、鈴木議員。

鈴木議員：議運では議員全体の意見を、そのために常任委員会が2つあって、常任委員会でそれぞれ話して、そこに出ている委員会の委員長が議運の構成メンバーであってということなのだ。議運で決めることって実はそんなになくて、選択するだけ、たぶん。各委員会で揉んだこと、そこから出さないと議運がただ結論を出すと議会動かない。それをずっとやってきていたはずだけれど、去年までは。今年はよくわからないうちにどんどん進んでいるし、やっている中でも、えっというところがいっぱいある。これこそ議会活性化に一番ダメなところだろうと思っている。勝手に進めるのは勝手だけれども。清水町議会をグタグタにしたいというならそれはそれで構わないと思っている。ただ、コントロールするのはもちろん委員長なのだけれど、議運は議長の諮問機関でもあるわけで、やはりコントロールをしっかりとっていただきたい。でないと、僕も行くよ、議会報告会。でも何のために議員報酬やっているのか、議員定数やっているのか。今年選挙終わってから一回も語られていない、それで町民に持っていくというのは、これは町民にどうあんなたち考えているのだ、と言われても言えない、それは。個人の意見は言えないから、議会報告会。過去の日程をどう進めてきたかというのを見ていくとわかるはずだ。それぞれの常任委員会でやっていることも、必ずそこに議会報告会についてとか模擬議会についてとかその委員会で必ず報告しているはずである。議運やって各常任委員会で、それがなされていないと、協力してと言われてもまず何のためにやっているのかわからないとなってしまうので、ぜひ今後は直してほしいと、各委員会、議員が共有できるようなシステム、各議員からボトムアップして議運で協議していくというやり方がスマートではあるし、これまでもずっとこれで進んできた。これは前々議長とも話していたのだけれど、清水町は議会何とか条例というのはないのだが、今まで積み上げてきた慣習慣例が実はどの議会よりも実はまともなことをやっていた。素晴らしいのをやってきていた。全部今年崩れているかなと私は思っている。慣習慣例って壊すとゼロになってしまうので。踏襲するものはしっかり踏襲しないと、しっかりやっていただきたい

と。苦言というか意見要望というか。意見要望は言うてはいけないと前にあったが、そうでもしないといたって何やっているのかとなるので。開かれた議会、全然開かれていないではないか、議会内において対立じゃないですけど意見も通らないような議会だったら、ない方がいいという結論に最終的にはなってしまうので。この辺ちゃんとしてほしい、よろしく願います。

山下議長：只今、鈴木議員から、議長に対する苦言だと思う、議長がいろいろな部分の諮問を議運の中でしていったかと言われれば、していない。というのは、議運の冒頭の中で議長が喋りすぎてはだめだというそれぞれの委員の話もあったので、そこらへんは議運メンバーにすべてお任せをして進めていこうとスタートの時点で思いついたところで、そういう意味では議長の諮問するということが足りなかったという部分は反省している。今後、そういった部分で、議運で練る場合については、各常任委員会にそれぞれ下した中で、そしてまた全体で議会でやっていくという方法で進めさせていただきたいが、鈴木議員よろしいか。

山下議長：はい、委員長。

橋本議員：鈴木議員の言われることもその通りだと思って聞いていたのだけれど、ただ勝手に進めているというのは違うと、議員協議会でテーマになっていることというのは大きい小さいに関わらず、全部全員協議会で中では報告しているので、報告したもので終わりだとなると勝手にという事になるのかもしれないのだけれど、そこで報告したことについて議運から出せば、あとは全員協議会だから、その場で意見交換、揉んでもらうということは十分できたのではないかなと思う。

鈴木議員：勝手に進めているというのは違うと言っているけれど、一週間前にこれやるよって言われたってこんなもの議論にも何にもならない。僕ら言われたとおりにやるのなら別に議会ではなくたっていいのであって、職制上、上の人に言われたことをただやればいいという存在ではないはずである、僕らは。勝手に進めてという言い方は確かに乱暴かもしれないけれど、結論から言ったら来週である、来週のものに言われたところで何をしろというか、前もってやってほしい。全員協会でしか知りえない、僕らは。その時も、こういう方向でと言ったか言わないか、でも、この文言はなかった、ないね局長、だからそこは認識では自分たちはやっているつもりなのでしょうけれど、他のメンバーは知らないのである、知りようがないのである。そこを責めるつもりはないのだけれど、皆で協力してやるというのが議会運営だと。それは今後もしっかり見ていきたいと思うので、ぜひ全体で協議できるシステム作りを早急に構築し直してほしいと、それを要望する。

橋本議員：グループディスカッションの中で議員は個人の意見を言うてはいけない、議会でやるのだからという事だったけれども、今回の意見交換会が、前提は議員それぞれが違う意見を持っているところからスタートしてグループディスカッションになっているので、自分の思いと違うけれど議会も進めようとしているのはこんなのだと想像して答えるのではなく、主には町民の意見を聞くというのがメインになるので、言いたいことはある程度我慢することになると思うけれど、自分の意見を捨てるとは考えていない。その上でこの形になっているという事をご理解いただきたい。

山下議長：議会議員全体でこれからも議論していく必要があるというのは痛感している。これから議運の進め方として、これから活性化に向けていく予定はしているのだけれど、そう言った部分についてはその都度各委員会なり全員協議会で報告を密にしながらいずれ議会全体の共有の中で進めていきたいと考えている。

事務局長：今、鈴木議員のお話の中で、実質的に会議をいつやったり資料を作ったりしているのは事務局なので、私の進め方の部分で全議員への説明の機会を設けて段取りというところでいくと、私のやり方もよくなかった点もあると聞いていた。反省というかきっちり進めていきたいと感じている。

鈴木議員：事務局を責めているわけではない。僕も議運の委員長もやったことがあるので、その時には、次何か月後かにこれあるこれあるっていったら、その前にやっただけの話、先を見越して次の議運は決まっている以上はやらなくてはいけないので、3か月前とか半年前から、大きい行事なんてそんなない、議会では。報告会とか模擬議会とかそれしかないの、それにめがけてやるのと、日常的なことと、更には全体的なこととやるにはそれぞれの委員長がしっかりコントロールしていただかないとならない所もあるし、事務局と委員長方しっかり打合せできているのかなという心配もあるので、ぜひ密にやってほしい、よろしく願います。

山下議員：今後も議運委員長、事務局長と、密にしながら議会全体での進め方をやってまいりたいと思うのでご協力よろしく。

桜井議員：日程的にもう日にちも無いし、町民に周知もしているので今回こういう形でやらざるを得ないと思うのだけれど、今年の議会議員選挙、1月に選挙を行った1年目に、それぞれ議員になるためにいろいろな公約、お願いをしながら当選して、その議会報告会で、定数と活性化どうしたらいいでしょうかなんて質問をする事態がまだ次期早々というか、そこらへんの考え方をしっかりしていかなければ次につながらないと思うので、議員になったからどうしようかって言っているような体制はいかがなものかと私は思う。まあ、今回は仕方ないので。

山下議員：今後、気を付けて進めてまいりたいと思う。よろしく願います。

中島議員：先ほど橋本委員長から、全議員がということでお話あった。議運だけじゃないと。そういう考え方は当然私たちそれぞれの委員会というのは、絞った感じでそれぞれ役割を担っていると私は思っている。そうした時に、今委員長が言ったように全議員が共通してということ、それを目指すのであればこれからどうこう云々ではない。現時点で今ある組織をどう動かすか、動いてもらうかという考え方である。だから、議運の委員の構成というのはどういう形になっているか、それぞれの委員会からという形になっている、個人指名ではないはず、議運の委員は、常任委員会が先に決まって、そこからそれぞれ常任委員会から何名ずつということで出ている、そしたら別に何も全員集めてこの問題の話をしなくたって常任委員会からでている方、今度の常任委員会があったらこれについて諮ってほしい、常任委員会でそれぞれ、そして、何か常任委員会の中でこういうことを町民に聞いてみようという意見があったら、そこで調整すればいいではないか、そして議運に持って行ってもらって議運で協議して、もちろん言われたことを全部できるとは思っていない、そこで選別をしてもらえば結果的に全議員が共通して持っているのではないかと、話題として。それを全議員でやらなくてはいけないと新たな組織作る必要はない。あるものを有効利用して組織全体で伝えることは簡単ではないか。今、桜井議員も言ったけれども、選挙終わって、この議員の定数というのは、本当に活性化とか何かに必要なことか、まあいずれ必要にはなるけれども、その辺のところ個人的に思うところあるけれどもさっておいて、まず全員でやるなら、今ある組織を有効に使って、速やかに議運で考えたこと検討したことを伝えるのは手法としてあるということ、私の考えだが改めて組織なんかを作る必要はない。できるだけ早く全議員に伝わる方法、簡単に今言った方法などあるのではないだろうかという思いがあるのだが、いかがなものだろうか。

山下議長：只今、中島議員から全員が集まる新たな組織というよりは、今あるそれぞれの常任委員会が構成されているということで、そういった部分を有効的に活用してこれからの議運の進め方をしてはどうかという話でよろしいか。そういった部分はまた議運委員長と相談しながら、これからの活性化の部分について進めてまいりたいと思うのでよろしく。引きつづき協力していただきながらやるのでよろしくをお願いします。他は、ないか。

佐藤議員：個人の話で申し訳ないのだが、清水町議会報告会があることについては、25日、26日決定していることが分かっていた。今まで考えていたのだが、役場に着いた頃困ったものだなと自分で思っていたのだけれど、今まで何もなかったものだから、ただ出席すればいいのかなという思いがあった。これを今日見てみたときにはこれどんな事をすればいいのかなと本当に困っている。

橋本議員：役割というか、司会と記録ということになっているが、資料の中にもあるけれども、記録というのは何か記録を取るということではなくて、ここで進めようとしているやり方というのは、それぞれの参加者が自分の思っていることを紙に書く、それを模造紙に貼っていく作業、そのやり方については今回それで行こうかと思うけれども、人数だとかテーブルの中での、まあそれぞれ考えてやってみようとなっているけれども、基本的には事前に大きな研修だとかを必要としない、当日人数が多くなれば、町民の皆さんでもその役割になっていただくようになるということもあるというような進め方になるので、どうしようかこれ、午前中に研修参加した方は体で体験しているけれど、説明を聞いてやることは十分可能とは思いますが、そんなに大変なというか、リーダーシップを発揮してやるというよりは、町民の皆さんの意見を聞くということが大事になってくると思うので、当日も事務局が説明して進めていくということで、それぞれがテーブルに着くけれど、その中でも十分にできると思っている。

山下議長：内容としては司会者を中心に進めていくという形で、記録者については特に作業的には特になく、町民がポストイットに書いたものを張り付けするという作業になる。

そこら辺も司会者が進めていくので、難しい記録というのはないのでご協力よろしくをお願いします。

橋本議員：あまり細かい話をここでしてもあれだけれど、資料にもあるが参加者がそれぞれ書いたものを紙に貼るといふ、そこではなくてこっちという線引きはテーマによってあるけれど、そういうところが記録係という形で名前が入っている付箋に書いたものを貼っていくというところのまとめである。指示ではなくてそれぞれが合意をしながら貼っていく、コミュニケーションを取りながらという形になっている。グループディスカッションでそれぞれが言葉でやり取りをするという事ではなくて、簡単に自分の意見をすっきりとまとめて出していくという事を狙っているのでよろしくをお願いします。

山下議長：手順についてはまた司会者が中心で議運の司会進行の中で進め方を改めて確認をしたいと思うのでご協力をお願いします。その他、今度の議会報告会と意見交換会の関係でお話のある方いるか。よろしいか。

それでは来週すぐだけれどもご協力をお願いします。また、今日お話いただいた部分については事務局、私と、議運委員長と連携を密にしながら各常任委員会とのやり取りを今後もしっかりとやっていくような形で進めてまいりたいと思うのでよろしくをお願いします。

議運委員長からの報告については終了してよろしいか。

続いて、その他の関係については前回の全員協議会の中でも鈴木議員、いろいろ

るな議員からお話あった、そういった部分で広報委員会の中で決算の審議の仕方という事で載せたいという事で申し入れがあった。それについて議運で説明をさせていただいて、次回混乱の無いように決算の進め方についてはその解釈の範囲をしっかりと遵守しながら勉強をしながら来年の決算については進めてまいりたいという事で議運の中で説明をさせていただいた。次回皆さんがいろいろな部分で、急に変わった、審議できなかったという事がないような決算・審議を進めてまいりたいと思うのでよろしく願います。

鈴木議員：その件なのだけれども、結論として、あれは議長がまだ正しかったと思っているのか、それともこれは間違っただけの解釈をしたという認識があるのか、それによって広報がなんて書けばという話に当然なる。

山下議長：解釈としては、もう少し範囲を広げながら次につながる部分の意見も聞くべきだったと考えている。解釈の違いという部分でお話しさせていただいたけれども、わたくしの解釈が違っていたという事で書いていただいて結構だ、よろしいか。

鈴木議員：これ、一番重要なところだった。過去においても、議員の発言を止めてしまうというのは、我々は何のために議員をやっているのだという根本的な部分になってしまうので、今後は間違えることのないよう願いたいと思う。十何年前、二十年前に、予算の時も決算の時も、議員向けの説明用の紙があったらしい、古い過去の事務局担当者から聞くと、予算はこういう内容で効果的な予算配分ができるか云々かんぬん。決算であれば、決算は次年度にどう結び付けていくのか、今回はどういう反省点があるのか。数字ばかり聞かないでください、数字は基本必携にも書いてあるが、決算だったら代監がいるので、そういうところで専門に見られているので、そんな細かいところを見る必要がないと必携にも書かれているけれど、そういう事前に配ってあるのが過去にあった。多分最近配っていないのは、しばらくあまり人が変わっていないから配られてなかったのではないかと考えていたので、是非それ探していただいて、改めて全員に配るでもいいし、議運でみてもらってもう一回やってほしいと。今回必携を見れば見るほど勉強になる。今、安芸高田市でもいろいろな事があって議員必携見ているかという事がいろいろなところから声が上がっている、運営って本当に難しいので、一歩間違えるととんでもないことになるので、今回のこの件は、僕責めてないよ、責めないのだけれど、結構厳しい問題である。議会で、議員の発言を抑圧したというか狭めてしまったという前代未聞のことだと思うので、今度このようなことがないようにぜひぜひ願いたいと思う。

(2) その他

山下議員：只今も前代未聞だと話があったけれども、前代未聞の議長にならないように、しっかりと勉強させていただきたいと思う。よろしくご協力のほどお願いいたします。その他、ないか。

中島議員：議員会からなのだが、手元に日程だけ決めてスケジュール等々をまだ皆にお配りできる状況ではないという事をお詫び申し上げる。であるが、今事務局に頑張らせていただいて、当日までにスケジュールを配布するので11月1日、2日議員会が年度計画に入れております研修を実施するので、資料まだお渡ししていないけれども日程等を調整して空けておいていただくようお願い申し上げます。

山下議長：11月の1日、2日について、スケジュールは後ほどお知らせするので、日程については空けていただければと思うのでよろしく願います。

鈴木議員：議員会幹事として、初日2日目とあって、2日目は道に行くことになっている。道庁でゼロカーボンの関係の勉強会である。初日については2転3転していて、例えば、厚真町のローカルベンチャー支援室というところを見たいと言っているのだが、相手先があるという事等いろいろあって、最終的にはもしかしたらエスコンフィールドの見学になるかもしれないが、ひとつよろしく願います。先ほどから事前にちゃんと言ってくれと言っている割には何も言っていなかったもので、今、この辺で調整しているのでよろしく願いたいと思う。

山下議長：出発までには日程が明確になると思う。皆、ご協力をお願いします。他になければ以上で全員協議会を終了する。

【閉会16：28】